

市政に関する一般質問の概要



市の経営戦略と
K.G. (ゴール・目的) について
政進会 森 英之

問 えびな未来創造プラン2020の策定背景、目的とともに「みんなが笑顔住みやすいまちえびな」という理念に込めた思いを詳しく伺います。

答 (市長)：えびな未来創造プラン2020は、社会情勢の変化やスピード感を踏まえて新たな課題に柔軟に対応できるよう、これまでの総合計画の構造を抜本的に見直し、理念計画としました。本プランは目標人口を15万人とし、「みんなが笑顔住みやすいまちえびな」を10年後の目指す姿として各種事業に取り組んでいるところです。最終的には14万市民一人一人の笑顔、幸せを実現するまちづくりが必要であり、一步一步確実に進んでいると確信しています。

問 行政機能におけるPDCAサイクルは、どのような機能がどの部分にあたるのか伺います。

答 (財務部次長)：P(プラン)の部分は予算編成、D(ドゥ)の部分は事業の実施、C(チェック)の部分は事業に対する行政評価、A(アクト)の部分はその評価結果を踏まえて担当部署で必要な見直しを行い、新たな事業計画に落とし込み、予算要求する作業です。こうしたサイクルにより事業のブラッシュアップを図っています。

問 令和11年度や令和20年度の目標人口を達成するために、どのような計画や事業があるか伺います。

答 (財務部次長)：目標人口15万人を達成するためには行政分野別に位置づけられた個別計画や予算事業を着実に進めることが重要と考えており、この個別計画は、宣言や方針、プラン、ガイドラインなどを含め、令和6年度末時点で約80計画あります。これら全ての計画を着実に推進して10年後の目指す姿を実現してまいります。



子育て支援について
高齢者施策について
公明党 大下 久美

問 子育て支援のうち、小1の壁と言われている低学年児童の朝の居場所について、令和6年第2回定例会でも取り上げさせていただきました。改めてニーズを把握されるということでしたが、その後の状況をお伺いします。

答 (教育長)：令和7年度の学童保育の利用ニーズ調査を行った中で、朝の学童保育についても調査を行いました。一定程度の希望があったため、実施する学童保育クラブへの補助について令和7年度予算に計上しています。

問 朝の預かり事業のほか、学童保育クラブで一時預かり事業を行っています。今後のこの事業の考えを伺います。

答 (教育長)：一時預かりは、学童保育クラブへの入所の有無を別にして、親と子どもが一時的に距離や時間を置くためのもので、令和7年度も継続する予定です。

問 市では高齢者の移動支援としてぬくもり号、ユーバス、えびくるを運行していただけていますが、運転免許証の自主返納を迷っている高齢者の背中を押せる施策が必要かと思ひます。例えば、えびくるなどの乗車券の補助やお米券の配布などを実施できないかお伺いします。

答 (市長)：ぬくもり号、ユーバスの実証運行、えびくるなどを含めた交通手段を今後どうするかということを担当に指示しています。今年の秋頃にはある程度、方向性が出ると思ひますので、提案があったものについては研究していく必要があると思ひます。お米券については、物価上昇の関係なので、別途、地域の経済活性化という形の中で検討する余地があるというふうに思っています。

その他の質問
・带状疱疹予防ワクチンについて



子育て・教育環境について
まちの緑化政策について
政進会 永井 浩介

問 小中学生には英語やプログラミング、AIの活用なども大事ですが、英語で何を伝えるか、AIを使って何をするか、人のために何をしたいのかという人間力が求められる時代だと思ひます。だからこそ生きる力や非認知能力が大事と言われています。この非認知能力と言われる忍耐力、協調性、創造力、自己制御力などが将来の学業成績や生涯所得にも大きく影響するという研究結果もあります。

非認知能力、人間力を高めるためにもフルインクルーシブ教育をどう現場に落とし込むのか見解を伺います。

答 (教育長)：今後できるだけ多様な子どもたちが、学校でさまざまな課題をみんなで考え話し合って解決するような場面を学習として繰り返し、それを教員や学校が支える教育活動が必要になると思ひます。自分が人と関わって社会の一員としてどう生きていくかを見据えた教育を、学年に応じて計画的に深めることが必要です。自分の有用性を実感しながら、みんなできつくりあげたことに共感できる経験を積ませるのが学校の価値だと思ひます。

問 まちの豊かな緑は心の安らぎだけでなく不動産の資産価値の向上にも寄与します。今後のまちづくりの部分で、市民や開発事業者が緑化に積極的に取り組むよう、インセンティブを与える仕組みの導入について見解を伺います。

答 (理事兼まちづくり部長)：市役所周辺地区でも民間開発事業が進む中、各事業区域内の道路沿いを緑化し、休憩できるベンチなどを設置していただくことで、公園などともつながる居心地の良い歩きたくなるようなまちなか空間が形成できるよう事業者と協力の上、進めてまいります。

